令和４年度　文化庁　Innovate MUSEUM事業

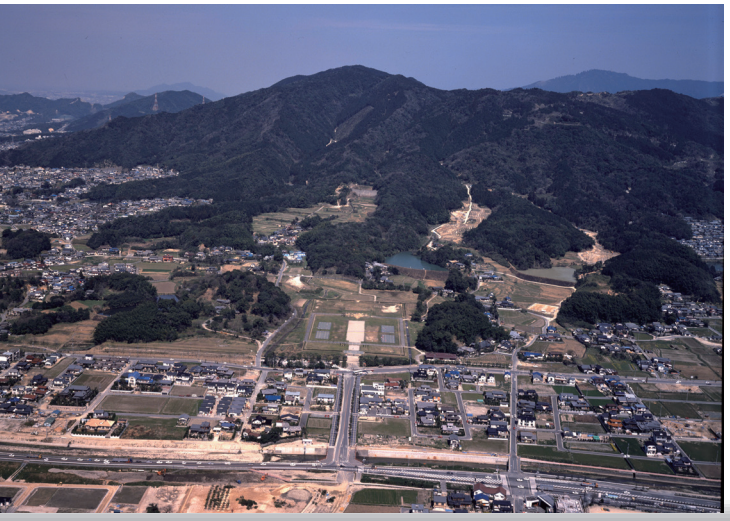
公開講座

斎宮・多賀城・大宰府

―古代国家における変遷とその意義―

さいくう平安の杜・正殿

多賀城政庁と城前官衙



大宰府政庁と大野城

基調報告

「奈良時代から平安時代における斎宮方格街区成立の経緯」
山中 由紀子（斎宮歴史博物館）

「多賀城の変遷と城下の方格地割の形成」
初鹿野 博之 氏（宮城県多賀城跡調査研究所）

「大宰府の官衙と条坊」
杉原 敏之 氏（福岡県教育庁文化財保護課）

討　論

「斎宮・多賀城・大宰府－それぞれの変遷にみる意義とは－」
山中 由紀子・初鹿野 博之・杉原 敏之

コーディネーター　大川 勝宏（斎宮歴史博物館）

<聴講方法>
会場（定員100名）
もしくは
オンライン

参加無料・要事前申込
（申込方法は裏面をご覧ください）

令和5年3月4日（土）13時～16時30分（12時30分開場）

会場　いつきのみや地域交流センター
（三重県多気郡明和町斎宮2811番地）

主催　日本遺産 祈る皇女斎王のみやこ 斎宮
斎宮歴史博物館
SAIKU HISTORICAL MUSEUM
（斎宮活性化実行委員会）

斎宮・多賀城・大宰府

斎宮は、「国家神」たる天照大神を奉斎するため、天皇の名代として派遣された未婚の皇女・斎王が居住した施設です。また、多賀城は東北地方における支配体制強化のための政治・軍事の拠点として、大宰府は古代九州の各国を統括するとともに対外交渉や軍事を担うことを目的として、それぞれ役割や規模は異なるものの、古代国家確立を目的として設置されたという点は共通するものです。
しかしながら、国家の関与のもと設置・経営されたとはいえ、その構造（構成する要素）や変遷の要因、画期はそれぞれの地域情勢により異なります。
今回の公開講座では奈良時代から平安時代の時期を中心として、古代の列島を広く俯瞰しながら、それぞれの拠点施設にどのような変化がもたらされたのかに着目し、その歴史的意義に迫ります。

斎宮跡　灰釉陶器陰刻花文香炉蓋
（重要文化財）

特別史跡大宰府跡　鬼瓦（重要文化財）

多賀城跡　出土木簡

【申込方法】

インターネット

必要事項を記入してお申し込みください。

三重県電子申請・届出システム
https://s-kantan.jp/pref-mie-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=346

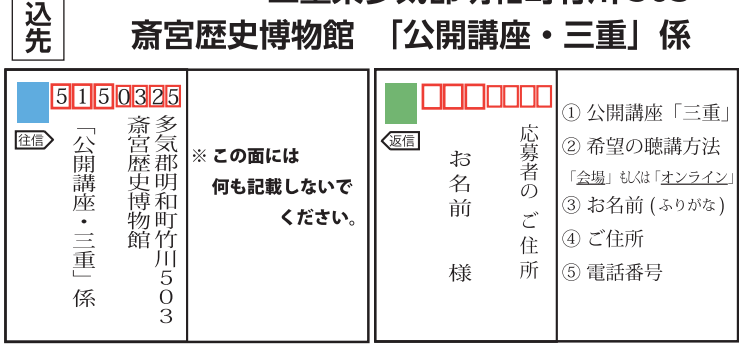
往復はがき

以下の項目を記入してください。

① 公開講座「三重」
② 希望の聴講方法
　「会場」もしくは「オンライン」
③ お名前（ふりがな）
④ ご住所
⑤ 電話番号（緊急連絡用）

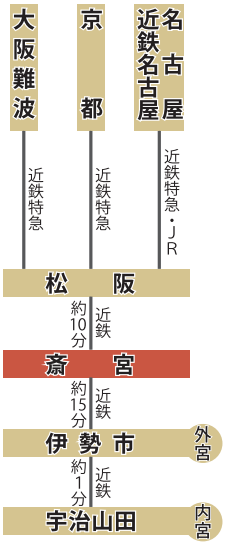
はがき１枚につき１名の申込みでお願いします。

申込先　〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川 503
斎宮歴史博物館　「公開講座・三重」係



往信用（表）　返信用（裏）　返信用（表）　往信用（裏）

【会場へのアクセス】近鉄斎宮駅下車　徒歩約５分



締切　インターネット　令和５年２月20日(月) 23時59分
往復はがき　令和５年２月20日(月) の消印有効

定員　会場　100名
（申込みが定員を超えた場合は抽選となります。）
※オンライン聴講には定員はありません。

【お問合せ先】
斎宮歴史博物館　TEL　0596-52-3800(代)
E-mail saiku@pref.mie.lg.jp

日本遺産　祈る皇女斎王のみやこ 斎宮

主催　斎宮歴史博物館
SAIKU HISTORICAL MUSEUM
（斎宮活性化実行委員会）